



各本賀揮額

汀南連宛



特別  
入5  
6673  
166  
早稲田大学図書館

初日新 多ふひきく 向山 丁坊

半おびる拾ひあせり 玉の妻 善三

電祭ふ今頼まわく心や日の傍り 阿田

泉川や水もやせきく今節の妻 桂雲

便のりくさ先と節歌や初日新 其明

世始善やゑ之と昔盤知ら木をり 里弁

こゝろあはれは家話よけし昔知らと懐く

東屋のよもやのり初小唯知妻 一州

事始や歌とさけの家 上つ如知 以華



賣うめや人形寄書か〜節 其々  
未神や多岐内と介と也 記極  
めもや〜や高ひうめ如養ふ事 儿夕  
毒を如く或は不毒物や 細ふのめ 女長青  
益石不暇り居て也 明所書 女兵和  
是生ふ梅と柳と也 在のこのゆり 双包  
并馬も娘如いさめや 老の長 音明  
日不流や〜落とのとの紙寄〜め 馬田  
各不ぬさの寸寄〜 向山 産良  
向うや〜めも〜〜紙 細体身 右雙  
梓言ふ家如かちんや 西ヶの書 極里  
雲うめや外不あ〜むと 斗り五 又斗

初う〜梅とま〜の 然とゆ 只泉  
輪〜〜紙寄〜〜て 意も極 女芳  
たのほの〜書か〜〜も 林如梅 記樂  
井の悲如知るも不〜〜物と水 芦舟  
廣書不実あ〜紙 もの〜叔 而后  
大ふ〜も書如か〜と 意も子 丑筆  
書か〜〜書か〜せも也 三鳥悟子 女里松  
山と〜〜之書か〜〜 意〜〜物 和及  
えりも山〜〜と〜と 意ひうも 多筆  
神子〜の〜と〜〜紙寄〜 紙の意 柳下  
菊ひふ〜と〜と〜〜 女正月 高深  
外は〜と〜書如〜と〜と〜と〜と 女正月 高深



春のさくらも 神無山より きて此處 桃下  
さくらも 春の上も 此處より 免保  
さくらも 春の上も 此處より 仙車  
かきくも 春の上も 此處より 急走

河小連流

例の四季の流るる流るる

春のさくらも 神無山より きて此處 桃下  
さくらも 春の上も 此處より 免保  
さくらも 春の上も 此處より 仙車  
かきくも 春の上も 此處より 急走

さくらも 春の上も 此處より 免保  
さくらも 春の上も 此處より 仙車  
かきくも 春の上も 此處より 急走







吹らぬ笛の音も 万葉集 雨降  
春のまはれも 遠く 糸河と 斗有  
山も 春も 花も いろも 初めは 里  
暮も 夕も 川の 水も 柳も 野  
暮も 夕も 川の 水も 柳も 野  
暮も 夕も 川の 水も 柳も 野  
暮も 夕も 川の 水も 柳も 野

和歌のたぐひのたぐひ

河内連気

軸も 木も 草も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も

はせくさりかめ 初めは 糸の 春 芦前  
絵も 紙も 花も 草も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
梅も 竹も 初めは 負す 負 和 睦  
初めは 初めは 馬も 青柳 一 苔  
春も 秋も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
の 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
と 春も 秋も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
戸は 白も 春も 秋も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
春も 秋も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
斗も 糸も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
輪も 糸も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
春も 秋も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も  
春も 秋も 花も 鳥も 虫も 魚も 石も 宇も







生初めやまゝあゝ〜 梅の頃 為中

あゝまゝ〜 目もはなれは〜 のど 長浦 の柳

初めあふ牛あはせも〜 春分 はなじ 色終

幸神や〜 花 川 如氷

あゝ〜 初めあふ〜 破蓋 李紅

あゝ〜 初めあふ〜 里仙

あゝ〜 初めあふ〜 先 勝山 吳中

あゝ〜 初めあふ〜 世の中と初めあふ〜 の善の物 徳也 如弁

あゝ〜 初めあふ〜 大 大 一宮

徳流下

うゝお借りあふ日如新 あゝ〜 文意

あゝ〜 初めあふ〜 福榮弟 吾友

の初めあふ〜 衆ありれ〜 碧波

我輩あふ〜 初めあふ〜 飛々

うゝお〜 初めあふ〜 玄再

一色あふ〜 初めあふ〜 以叶

福川や〜 初めあふ〜 晴更

福せあふ〜 初めあふ〜 霜々

あゝ〜 初めあふ〜 和石

大あふ〜 初めあふ〜 荳阿

あゝ〜 初めあふ〜 其叩

初初あふ〜 初めあふ〜 幾在

猿川や〜 初めあふ〜 帰山



初會

半おのり喜ばせ入るわのこたてく

おのりおのりのありま

ふん

うんおのりもあつておのりもあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

あつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて

おのりのあつておのりのあつておのりのあつて



ちしはぬのにもきけんきき希 朔望

急な浪信はあ〜の吹た浪 冬

みみりてきく浪新指さ来 松雨

分浪考とわらひ無指とあさる 石を

火戸の〜者人〜と浪あひ 浪丈

落心〜あ〜の浪きりす終 女子

日暮〜〜と〜の秋 一物

あはかき人古今無指と身新月 眼を

穂菰今と〜とふ浪新無恒 馬回

獨り〜〜の浪あはしと花さ 只衆

屋の〜と〜の浪あはしと日 浮川

所浪あはし〜と〜の浪あはしと 芦舟

まん〜あ〜の浪あはしと 又斗

きりきりあ〜の浪あはしと 奈出

山と〜の浪あはしと 仙舟

吉亭伝行



